



深山たかし

発行元：深山たかし後援会
上尾市大字上1774-7
048(776)0575

fukayama.net
” URLを変更しました

議会りポート

エコカーの 社会実験を要望

毎日のように高齢者ドライバーの自動車事故の報道を耳にします。「運転免許証の自主返納」を促進するためには、社会全体で生活の足を確保する仕組みを作る必要があると考えています。

石川県輪島市では、ゴルフカートを公道で走行出来る仕様に変わって市内循環の社会実験を始めています。低床で乗り降りも楽で、スピードも出ない事から将来の地域の足としての期待が高まっています。上尾市でも導入して欲しいと考えて提案をしました。



石川県輪島市で社会実験中の電動カート

【答え】「エコカート」については、ゴルフカートを活用し低床構造であることから高齢者や子供でも乗り降りがしやすく、電動カートであるため排気ガスを出さず環境にやさしいなどのメリットがあると聞いています。

また、輪島市のようなゴルフカートを活用した取り込みや自動運転の取り組みは、他の自治体でも実証実験が行われています。従って、導入費用や導入後の維持管理、また当市の交通事情へ適合するか、他の自治体の事例を注視しながら、調査研究をします。

要望が実現 しました

防犯灯のLED化

平成二十六年六月十九日に「省エネルギーの観点から道路照明灯を蛍光灯式からLED式に移行する様に要望したところ、昨年度と本年度の二ヶ年で交換作業を行っています。その結果、事務区の負担軽減と、設置経費を除けば十五年間で約三億円の経費節約になるとの報告がありました。

オープン型宅配 ロッカー

宅配便の再配達が社会問題化してきています。また、認知度は低いのですが、複数の業者が共同で利用出来るオープン型宅配ロッカーを公共施設等の人の集まる場所に設置してはどうかとの提案を行いました。

千葉市は四月五日から、市内の公共施設に宅配便の荷物を受け取るロッカーを設置する実証実験を始めています。上尾市でも取り組み価値はあります。



BIG-A上尾上町店の宅配ロッカー

水道事業について

知って頂きたい事

【問】水道事業の現状
給水開始当時と現在の、
給水人口、給水戸数な
どについてですが、本
市の水道事業は、昭和
三十九年十月に中央浄
水場から給水を開始し
まして、現在五十二年
経過しました。

給水開始当時の給水
人口は二、八八八人、
給水戸数七百二十二戸、
普及率五・六%でした。
平成二十七年度末の
給水人口は二十二万七、
九百十二人、給水戸数
九万五千、四十三戸、
普及率九十九・八%と
なっています。
また、平成二十七年
度の給水量は、
二千六百七十七万八十
六立方メートル、
平成二十七年度末の管
路延長は約八百十九キ

ロメートルです。
給水量と給水収益の
ピーク時と現在の变化
についてですが、給水
量のピークは平成十六
年度で、年間給水量二
千三百万三千五十七立
方メートル、給水収益
四十二億三千九百四十
二万円でございます。

それ以降、減少傾向
を続けており、平成二
十七年度の給水収益は
三十六億二千二百九十
七万円でした。
ピーク時の平成十六
年度と比較すると、給
水量は約百三十三万立
方メートル、給水収益
は約六億円の減少となっ
ています。

【問】
給水人口は現在も微増
しているようですが、
年間給水量、及び給水
収益が減少しているの
は、どのような理由な
のか？
また今後の見通しは、

どのように予測してい
るか？

【答え】

年間給水量、及び給
水収益の減少につきま
しては、少子高齢化や
節水意識の向上、節水
機器の普及による、一
人一日当たりの使用水
量の減少が原因と考え
ています。

この一人一日当たり
の平均給水量は、年間
給水量のピークだった
平成十六年度には二百
八十五リットルでした
が、平成二十七年度に
は二百六十一リットル
となっております。

今後少子高齢化や
節水機器の普及は進む
と考えられ、水道事業
経営は、厳しさを増し
ていくと予測していま
す。

【問】水道事業は、過
剰に儲けているのか
平成二十七年度決算

では、純利益が約五億
五千万円計上されてい
ますが、この利益はど
のように使われるのか？

【答え】

水道事業の予算、決
算は、収益的収支と資
本的収支で構成されて
おり、純利益が約五億
五千万円となっている
のは、水道料金を主な
収益としている収益的
収支です。

この純利益を積み立
てた「積立金」を主な
財源として、配水管の
布設工事や浄水場施設
の更新工事を行ってい
るのが、資本的収支で
す。

従ってこの純利益は、
後年度の配水管布設工
事や浄水場施設の更新
工事に使われます。

【問】

利益は「安全な水道
水」供給のために重要
な、今後の施設更新の

財源に活用されること
は、理解出来た。
持続可能な水道事業
の運営には、この財源
を確保することが重要
だと考えるが、他に必
要なものはあるのか？

【答え】

今後、給水量の減
少に伴う給水収益の減
少傾向は続くと見込ま
れるため、更なる経費
の抑制が必要と考えま
す。

一方「安全な水道水」
をいかなる時も供給す
るためには、老朽化し
た施設を更新し、災害
に対する対策も進めな
ければなりません。

また、水道を安定的
に供給するためには、
一定レベルの知識と技
術を有した職員が必要
になりますので、水道
事業職員の技術の継承
と向上も重要だと考え
ています。